Obituary of the Late Mr. Masaomi HEGI

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Kido, Masayuki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00056335

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

う。

2. 白山スーパー林道周辺植生

白山スーパー林道は建設にあたって種々物議をかもしながら1977年に開通した。全線の原植生はブナクラスに属し，山地帯にあたるが，多雪地であることと，急傾斜地であるために自然保護には意が払われながら建設が進められた。しかし，ヘアーピンカーブ点を中心とした自然破壊は著しく，今なお土砂の崩落がつづき植生の回復がおくれている。

一方，石川県林業公社は，道路造成に伴う切り取り面，盛土地等に，白山自然保護センターの指導により種々な方法を用いて修景・緑化を試みている。緑化には自然種を用いることを第一にしているが，ヤマヨモギの種子の入手が困難であるため，ヨモギが代用品になるなどの簡便策がとられているが，外来種は現在のところ，工事が初期に行われたところでのイタチハギの導入以外には見られない。しかし，播種した種子の中に外来種が混入することはあり得るので，今後とも監視は必要である。

以上のような事態に対応するために，大縮尺(1/5000)の現存植生図の作成(1980〜81両年にわたって作成)，ブナ林，クロベ林での定点観察，スーパー林道全線にわたって設けられた定点での写真撮影による植生の変化の把握作業がつづけられている。

3. 主要文献

菅沼孝之・芳賀真理子・四手井英一・小松晶子 1976. 白山室堂平および弥陀ヶ原の植生. 石川県白山自然保護センター研究報告，第3集 31—47.

——・——・——1978. 白山南竜ヶ馬場の高山草原植生. 同上，第4集 33—40.

——・辰巳博史 1980. 白山室堂平の高山雪田植生の回復状況(1). 同上，第6集 23—36.

○ **大谷茂先生のご逝去を悼む**（長谷川義人）Yoshito HASEGAWA : Obituary of the Late Mr. Shigeru OHTANI

大谷茂先生は1981年1月24日に亡くなられました。氏は1900年（明治33年）1月14日横浜市港北区（現・緑区）池辺町の村長を務めた家柄の5男1女の次男として生まれました。父上毅氏並びに御兄第6人は皆様教育関係に携わったとのことです。氏は慶応大学の岡村周蹄先生の講義を受け生物学並びに教職（文検・植物・大正14年合格）への道を歩まれ，大正8年横浜植物会入会，久内清孝先生や松野重太郎・清水藤太郎・府川勝蔵氏（全て故人）等とは終生の友人でありました。また1929年（昭和4年）牧野富太郎先生宅で分類学講義を受けられ，私が牧野先生の晩年その会に所属していることもあって，よく先生の思い出を懐しみを込めて語られました。1949年（昭和24年）9月三浦半島研究会結成と共に副会長となり，この時のメンバー羽根田弥太（発光生物・市博物館初代館長）・柴田敏隆（現・山科鳥類研）両氏とは1954年4月横須賀市博物館設立時の僚友であり，氏は逗子中学校長在職中に研究員を委嘱され，1959年（昭和34年）校長退任後も一貫して館の運営に力を尽されました。1955年（昭和30年）神奈川県博物館協会自然科学部会長，1957年（昭和32年）日本シダの会入会，1958年（昭和33年）北陸の植物の会入会，1959年（昭和34年）横須賀植物会発足時には会長に推挙され，更に市文化財専門審議会委員も務められて居られました。1979年（昭和54年）神奈川県植物誌調査会発足と同時に籾山泰一氏と顧問就任。先生の研究業績は市博物館研究報告に共著を含め18篇の主要論文があり，館雑報や他誌にも雑録など多数があります。特に神奈川県産・三浦半島産植物とシダ植物は終生の研究テーマでした。最期の論文は「イノデ類の新雑種について」(1980・共著）となりました。また氏は普及面にも尽力され後進の指導に当られました。作曲家・團伊玖麿氏も植物の弟子のお一人であることは團氏の著「パイプのけむり」に出てまいります。博物館研究報告に専門学者の論文を慫慂し倉田・大場（秀）・中池・佐橋氏などシダ研究のものや初島住彦先生の論文が登載され，特に倉田先生の多くの論文がシダ学の発展に与えた影響を考えるならば大谷先生が演じられた役割は特記されるものがあると考えられます。氏は若年に結核に冒され晩年はしばしば闘病生活を送られましたが不屈の精神で御活躍されました。私は追悼文を書く任ではありませんが，1965年（昭和40年）館に約5,000点の標本を寄贈した縁もあり，先生との多くの思い出があります。温厚・誠実なお人柄を偲びつつここに一文を草し，御冥福をお祈りする次第です。

○ **日置正臣さんを偲ぶ**（城戸正幸）Masayuki KIDO : Obituary of the Late Mr. Masaomi HEGI

新種シビカナワラビを発見した日置さんが続いてキュウシュウイノデの大群落を発見した，というニュースを耳にして，早速探索に出かけたが，3回目にやっと見つけた。

その日，偶然，日置さんにお会いする光栄に浴した。それから，なんと17年，九州支部の会には熱心に参加し，懇親会では，いつも皮切りに歌をだして，座をにぎわしてくれたものだ。

支部の会のほか，お互いに行き来して，私もよく歩いたが，彼もよく歩いた。そうして珍種を発見しては，みんなを驚かした。

天草下島の福連木で，フクレギシダが再発見され，同時に，フクレギクジャクも発見されて，その後，両種共それぞれ新産地が3ヶ所発見されたと思うが，日置さんは，冠岳でフクレギクジャクを，八重山で両種を同時に発見する幸運に恵まれた。

それは，彼が大変熱心で，学究的な採集家であり，シダーすじに山を歩いてきた賜であると思う。

元気だった彼も，昭和50年大分県の大会のあと健康を害し静養なさっていたが，53年には健康を恢復し，霧島山麓での忘年採集会に元気な姿をみせ，盃を手にした笑顔をみせて下さった。彼は，ほんとうに焼酎ずきで，朝からおみきをあげないと調子が出ないようであった。

56年5月初め，川原さんから電話があり，大工園さんと薩摩布計に行きたいというので，私が案内することになり，日置さんも参加なさるというので楽しみにしていたのに孫が来るからといって姿をみせなかった。

2日後，突然の訃報に接し，愕然とした。

無欲恬淡，飄然とした姿の日置さんは，忽然と，あの世へと旅立たれた。まことに，痛恨の極みである。ここに思い出の一端を述べて，心から哀悼の意を表したい。

○ **浜田 稔先生の御逝去を悼む**（里見信生）Nobuo SATOMI: Obituary of the Late Dr. Minoru HAMADA

浜田 稔先生は1981年9月29日におなくなりになられました。先生は，昭和45年4月，本会に御入会下さいまして，本誌に対し，何かと御指導をいただきました。会員の方々とともに御冥福をお祈り申し上げたいと存じます。

先生は，幼い時よりランを好まれ，特にツチアケビの発芽の御研究から，ランの菌根菌の分類同定という御仕事に進まれ，日本の南北の同じ種類から同じ菌が出るか，同地に生ずる他の種類の菌はどうか，Albinoのようなものはどうか，など多くの問題に熱意をもって取りくんで居られました。又，一方ではマツタケの調査にも従事されて，極めて多くの知見を御持ちでございました。石川県で，先生に御願いして松茸山の調査をしていただいた事がありましたが，その際，私は先生の該博な御知見に接し，ただただ驚歎致しましたと同時に，学問に対する考え方を思い知らされた次第でした。

御奥様より御訃報をいただき，誤報であってほしいと思います。そのわけは，上述のように多くの御仕事をしておられるにもかかわらず，先生は，完全主義と申しましようか，中途半端な御発表をなさいません。それだけに活字になったものが少ないように見えます。したがって，生意気ながら，是非書いて下さるよう申上たことがありましたが，幽明相隔った現在，せん方ないことながら，冥土に届けとばかり，大声を張りあげて，おうらみを申し上げたい気持です。

○ **北海道の高山植物と山草** 伊藤浩司著。B5版，230頁（内索引14頁），定価4,300円（〒300円）。昭和56年6月，誠文堂新光社発行。

本書は，ガーデンライフの別冊で，5～172頁に，梅澤 俊氏が撮影された美くしいカラー写真679枚が納められ，それぞれの種類について，生育地・全体の形・茎の高さ・葉の形・花期・花のつき方・花や花冠の形と色・果実の簡単であるが適格な記述がなされている。

北海道の高山植物をあつかった既刊書に，創土社発行の原 秀雄編：北海道の高山植物があるが，これは豪華本で価格が高く，たやすく手に入れることができないが，本書は，比較的入手しやすく手頃なものと言えよう。

本文では，I 北海道の植物，II 分類のむづかしい植物の見分け方，III 徹底したい自然保護の3項からなり，その末尾に参考文献が挙げられているが，その中には，本誌に掲載された論文が多数あり，北海道の植物について，本誌も大いに貢献することができたことをよろこばしく思っている。（里見信生）。

○ **新園芸教室** 湯浅浩史著。11.5×19.5 cm，236頁。定価980円。昭和56年7月25日，八坂書房発行。

家庭でやさしく楽しめ，話題性に富む，新鮮な内容のコラムとして，朝日新聞の家庭欄に連載したものを，単行本としてまとめられた。1977年10月25日，第1回の"見かけ違うが同じ仲間"から1979年12月26日，第104回の"花から根までおいしく"までの104篇である。内容は，著者が各地で見聞したり体験した身近な園芸をエッセイ風に書きつゞったものである。したがって，各篇すべて楽しく拝見した。例えば，18頁の"金の成る木"を私もいつかつくって，知人に進呈してみたいと思っている。（里見信生）